

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 433 号	氏名	井手口 怜子
学位審査委員	主査	工藤 崇	
	副査	森 望	
	副査	大園恵幸	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、もやもや病患者の核磁気共鳴画像 (MRI) Fluid-attenuated inversion-recovery (FLAIR) 撮像法において観察される Ivy sign と呼ばれる高信号が、脳血流・脳循環予備能とどのような関係にあるかを明らかにし、臨床的意義を定義づけようとした物で、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 脳血流評価の標準的手法である脳血流 SPECT (Single photon emission computed tomography) による血流測定と FLAIR での Ivy sign の出現頻度を対比し、治療 (浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術) 前後の変動を視覚的また定量的に評価し、統計的に解析した物で、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、Ivy sign の出現部では非出現部に比べ脳循環予備能が有意に低下していることが明らかになった。また、出現部における脳循環予備能は治療により改善することが明らかになった。過去の文献では造影 MRI による Ivy sign の検討があるが、本研究では造影なしの FLAIR 法を用いても、Ivy sign が評価できることが示された。煩雑かつ高価な SPECT の代わりに、安価かつ安全な非造影 MRI で得られる Ivy sign を指標とすることで、もやもや病の治療効果判定や脳循環予備能低下群の発見ができる可能性が示唆され、今後の臨床的応用が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は画像診断学、およびもやもや病研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			